

新田地区
(豊岡地域)



新田地区は六方たんぼを中心に8つの集落があり、法人・個人の担い手などが、水稲（コウノトリ育むお米、無農薬、減農薬）を中心に大豆や麦を作付けています。

六方たんぼに灌漑（かんがい）用水を供給しているのは新田井堰（いせき）土地改良区で、取水堰、導水路、供給パイプライン、ポンプ施設等を管理しています。

今年梅雨明けからの渇水で導水路の水が低水位になり、思うように水の供給ができず多少の被害が出たところもありました。今後の水不足が心配です。

当地区では、百合地と河谷にコウノトリの巣塔があり、河谷巣塔では今年7月に3羽のヒナが巣立ちました。トラクターやコンバインで作業していると、コウノトリが昆虫や、は虫類を食べに近くまでやってきます。



田中農業委員



松岡推進委員



冬になると冬季湛水した水田にコハクチョウがやってきて、春はヒバリなどいろいろな野鳥が生息しています。

農業者の高齢化、担い手不足など今後の課題はいろいろありますが、自然豊かで美しい六方たんぼを守っていききたいです。

ほいたらね！

（推進委員 松岡 正人）

高橋地区
(但東地域)



私が担当する高橋地区は豊岡市の一番東に位置し、山間部の川沿いに農地が多くあり、15アール前後の圃場が多くある地域です。

また、未整備田が多く、山あいので圃場で法面が2メートル以上あるところも多くあり苦労されています。

しかしながら、この地域で稲作をされているのは熱心な方が多く、後継者不足の中で現状の農地を守っておられることに頭が下がる思いです。

昨年、「地域計画」について、この地区でも今後の農業のあり方について協議・検討されました。高橋地区では一部農地の集積化ができたものの、今後の不安のほうが大きくなったように感じます。

近年、新規就農者が数人おられ、その方たちに託されている地区もありますが、今しばらくは現状維持のよう感じています。

私の勤めている会社では、農作業



桑田農業委員



栗垣推進委員



を受託している関係上、地域の方たちと接する機会が多くあり、推進委員になってからも皆さんと気さくに話をさせていただいています。

以前は「栽培」や「機械の操作」について聞かれる方が少なかったのですが、最近は世代が変わったからか、色々な質問をいただくことが多くなりました。

「よりおいしいお米を」「よりたくさんのお米を」は生産者の基本的な願望ですが、そういった話を多く聞くようになりました。

先行き不安な時勢ですが、精一杯頑張ってみようと思っている方たちがおられることも事実です。

そんな方たちに、少しでもお役に立てればと思っています。

（推進委員 栗垣一夫）

「但馬牛繁殖肥育一貫経営を目指して」 旗谷 好将さん(出石町暮坂)



旗谷さんのお家は、祖父の代から牛に携わり、父親も現役で牛を飼育しておられます。最近では、50頭規模の牛舎を増設し、親牛62頭を飼っておられます。牛に与える牧草飼料は100%自家産を目指し、こだわりの飼育に励んでおられます。

農業とは関係のない大学を卒業し、公務員希望だったそうですが、実家が牛を飼っており、いつしか牛に興味が出てきたそうです。

豊岡市の農業スクールに入校し、将来の自営を目指して兵庫県の中でも1・2を争う規模の畜産農家へ研修に行き、畜産仲間の若者グループのリーダーを務めるなど、意欲的に畜産経営を学ばれています。

但馬牛は、兵庫県産の牛（特に旧美方郡産の牛）だけがメインで改良された経緯があり、その中の系統牛がもてはやされた結果、血縁関係も高くなり、病気などで飼いにくい牛が増えてきました。

そんな中、旗谷さんは数少ない城崎系や出石・但東系統の牛を導入され、対応されています。但馬牛の資源として母方の系統はとても大切で、高く売れるものだけ飼えばいいと考える方がほとんどですが、先を見越して取り組んでおられます。

将来は繁殖だけでなく肥育も行い、一貫経営を目指したいとのことでした。

牛飼いは大変なことが多いですが、奥が深く、それゆえに面白く、続けていけるのだと思います。

(推進委員 谷口 正徳)

「只今、奮闘中!!」

寺内 信康さん(出石町袴狭)



寺内さんは、建設業を経て有限会社坂本農事から株式会社アシスト産業代表になられ、4年目になりました。

経営規模は、水稻10ヘクタール、ブドウ25アール、施設野菜30アール(9棟)、露地野菜35アールの多角経営を奥様と2人でされています。

春から秋は水稻・ブドウを、秋から冬は施設野菜・露地野菜を作期分散しながら、農産物販売会社などへ出荷されています。

ブドウ栽培1年目は栽培方法が分からず苦労しましたが、収穫期にはJAぶどう部会の先輩方や、普及員の方にでき映えを褒められ、とても嬉しく努力が報われた瞬間でした。「何かと苦労は絶えませんが、頑張れば頑張っただけ見返りが多くあり、収穫の時期が一番楽しく仕事できています」と話されていました。

また近年、ブドウがアライグマ・ハクビシンなどの被害に遭い、調査・勉強会を重ねた結果、兵庫県森林動物研究センター協力のもと、中型獣用電気柵を試験導入され、「今のところ完璧に抑えています」とのことです。

近頃、農家の方から「これからは君たちの時代やから応援してるで!」「分からんことがあったら何でも聞いて!」と声を掛けられるそうです。

今、奥様とタッグを組んで奮闘中ですが、人員を増やしてより充実した農業経営を目指しておられます。

(農業委員 尾藤 光)